会長	常務理事	事務局長	係長	

社協だより

第　8　号
2001年2月1日
（平成13年）
発　行
桜小地区社会福祉協議会

太平山を背景に横森・桜市街を望む

支えあう福祉をめざして

桜小地区社会福祉協議会
会長　菅峨徳司

二十一世紀の夜が明けました誠におめでとうございます。

日頃地区の福祉の充実につきましては格段の御協力と御援助を戴き厚くお礼申し上げます。

地区社協としても大過なく二十一世紀の飛躍の年に入りました。省れば昨年は青少年の数々の凶悪事件が続発した年でした。これは我々大人にも責任の一端があると思われますが、幸いにして当地区では安泰でありましたことは同慶の至りであります、老いも若きも笑顔で挨拶の交わせる世の中にしたいものです。

さて当地区もご多聞に洩れず少子高齢化は驚く程の早さで進んでおりますことはご承知のとおりです。敬老会入りの方は当然増え、孤居老人となられる方の多いのには心が痛みます。これ等福祉の充実の為にも市社会福祉協議会提唱の全戸会員・会費制に今年こそは加入実現に向けて進みたいものと会員皆様の御理解、御賛同をお願いいたします。

会員皆様のご多幸をお祈り致します。

二十世紀最後の敬老会
大盛会、百九十七名参加

社協副会長　川辺兼次郎

社協主催による恒例の敬老会が九月十五日桜会場と横森会場の二会場で盛大に開催されました。該当者は桜会場三一八名、横森会場二一三名、計五三一名で参加者は桜会場一二〇名、横森会場七七名、計一九七名でした。従来と異なり変化する時代に即応するため、傘寿記念品を鳩杖から楯に変更し、更に収容人数の関係で桜会場に横森三丁目と横森四丁目の方が入って開会、各会場共主催者側代表の挨拶で始り続いてそれぞれの該当者に対する記念品の贈呈を行い、その後敬老者の代表者からの謝辞があって式典が終了しました。引続いて行なわれた懇親会では自慢の歌や踊り等が披露され、無我の心境となり心ゆくまで楽しんだ一日でした。

（歓談の渦）桜会場

平成12年度共同募金実績

（単位：円）

種別 / 町内会名	赤い羽根	歳末助け合い	合　計
桜1、3	80,000	8,000	88,000
桜2	180,000	15,000	195,000
桜西	90,000	9,000	99,000
桜4	60,000	12,000	72,000
桜が丘	200,000	25,000	225,000
大平台	10,000	10,000	20,000
横森1	181,500	10,000	191,500
横森2	176,000	12,000	188,000
横森3	100,000	8,300	108,300
横森4	132,000	11,150	143,150
横森5	150,000	10,000	160,000
市営住宅	30,000		30,000
県営住宅	10,400		10,400
桜小学校	25,785		25,785
桜中学校	40,790		40,790
温泉パルコ	3,000		3,000
オートプロサクセス	5,000		5,000
矢後商興	10,000		10,000
桜ゴルフ	50,000		50,000
松本造園	5,000		5,000
預金利子	43		43
合　計	1,539,518	130,450	1.669,968

日赤表彰規程改正（平13・4・1）

1、社費一万円以上の方への感謝状銀バッジ廃止。
2、社費二万円以上、特別社員の称号付与。
3、「金賞」「銀賞」の区分廃止。
4、平成13、14年度に限り一万円に達した社員に対し、「表札」交付。

◆表彰◆

次の方々が永年の社会福祉活動の功労者として表彰を受けました。

・厚生大臣表彰
松本宗吉氏（横森二丁目）
・県知事表彰
長谷川リエ氏（桜二丁目）
・県共同募金会会長表彰
木場昭博氏（桜一丁目）

◆寄付金（香典返し）感謝申上げます。

○原田禮子様　桜一丁目　一万円
○田口長太郎様　横森一丁目　五万円
○青木京子様　桜台三丁目　三万円
○木場昭博様　桜一丁目　五万円
○駒形ヌイ様　桜四丁目　二万円
○伊藤正利様　横森四丁目　五万円

◆「歳末助け合い」募金報告

善意十三万四百五十円

会長、事務局長、民生委員が次の方々と二施設を訪問しお見舞いしました。

（若竹学園で）

（社協スタッフ）

〔内　訳〕
1．お見舞い
(a) 施　設
（若竹学園、桜の園）　30,000円
(b) 在宅・寝たきり
83,431円
（粗品を含む）
2．事務費
10,188円
3．残　金
6,831円
※残金は市社協へ

あとがき

悲しい事態の多かった二十世紀でした。新しい時代こそ希望に満ちた平和で温かい社会であって欲しいと思います。地区社協は、ささやかながら福祉への貢献を続けていますが力不足の感は否めません。皆様の力添いをいただき更に努力したいと思います。

年間の歩みを紹介しました。ご批正ご感想をお寄せ下されば幸いです。

（編集委）

生きがいの再発見へ

独居高齢者懇談会

お独り暮らしの高齢者交流会が毎年社協で開催されているが、今年は十月十五日桜ゴルフを会場に開かれた。四十四名の多数のご参加があり、日頃の悩み、隣近所の温かさの紹介、いざッ！という時の対応、除雪など行政への要望等、話題が豊富、後半余興隠し芸の披露で大盛況。

仲間作り、新しい生きがいの発見、語り合いによるストレスの発散や心の健康づくりを目的にしたこの会、今年も充実した内容に終始した。（鈴）

悲しみを幸せの思い出に変えて

横森一丁目　渡邊桂子

炎暑の夏が堪え難いほど長く感じられた日々も去り風が爽やかに感じられる十月十五日、一人暮らし高齢者との懇談会にご招待をいただき参加しました。会場にはもう町内の民生委員さんがお見えで親しく迎えていただきました。

いたわりの温かいおことば

主催者側の会長さん市議さん等、私達一同に深い敬愛にあふれた感謝と、一人で暮らしていることへの、温かい労りの気持ちを込め、これからも地域が支えて下さる等の力強いお励ましのおことばをいただき大変嬉しく思いました。

（語り合い）

バランスをとった余生

座談会の話題は、一人暮らしの生活の中での心配事や地域、市に対する要望など、また趣味や喜び友情の大切さ、親族の手助けを素直に受け、地域、隣人への感謝の気持ちをもって暮らしていると言う発言が続きました。今独り暮らしの自由と責任を、余生の持ち時間にうまくバランスをとって配分しつつ生きていかなければならないと気を引きしめました。

生きていく指針

会食、余興と、名司会、名進行係のもと和やかな時が過ぎていきました。今日の会に知り合いの方は一人もおりませんでしたが、席を同じくした方々の仲間に入れていただき、話合いの中から元気とあらためて生きていく指針のようなものを感じ満ち足りた気持ちになりました。

民生委員の訪問、励まし

突然訪れた伴侶との別れ、その瞬間から自分自身の過去を失ったことに外ならないとまで思い詰めて過ごした日々、そのようなある日民生委員さんの訪問を受け、お話しをお聞きしているうちに私の身を案じて下さる方々のいるこの地域に住む幸せを深く感じ、感謝の気持ちでいっぱいになったのです。

一人でも心は豊かに

失ったものの多さとは比べられませんが、新しく得たものもあります。夫を中心に家族で過ごした四十年の歳月を思えば一人でも心は豊かに生きて行けます。

健康に留意し、元気な姿をお見せすることが温かい地域の皆様へのご恩返し、との思いで日々精進し、来年も皆様方とお会いしたいと思います。

社会福祉協議会の皆様ありがとうございました。

事業内容の綿密な話合い

下北手地区社協との交流会

十月八日下北手地域センターで開催され当地区社協からは、三役及び民生委員代表が参加した。

活動報告、意見交換の中で感じた事、さすがに「本家社協」だけあって事業計画内容も充実していて見習うべきものが多くあった。

また、共通する悩みとしては、共同募金があげられたし、更に今後情報交換を密にすることとした。

こんにちは！民生委員です。

副会長　堀　宏（桜地区民協会長）

桜、横森地区民生委員15名厚生大臣より辞令を拝命し責任と自覚と奉仕の精神で地域に根ざした活動に徹しようと全員一丸となって努めております。高齢者福祉、生活保護、児童、身障者への対応、介護、母子父子、生活福祉資金、安否確認、その他諸行事、公的機関との連絡等仕事は多岐に及びます。

特に「社協と民協は車でいえば両輪」どちらが故障しても円滑な運営は不可能です。お互いスクラムを組んで少子超高齢化社会に向かって磐石の体制で「安心して幸せに暮らせる社会」を構築していかねばなりません。その為に地域の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

桜・遊クラブ

育てよう地域の子供

（児童民生委）北村敏子

秋田市民生協議会が押し進める子育て支援の一つとして、桜小学校三～四年生を対象に発足した「桜・遊」も今年で五年目を迎えます。登録人数56名認定指導員三名。毎週水曜日の午後、子供達は授業が終えると体育館に集まり活動開始。自由時間から始まり遊びを用いた体力づくり、最後は全員が熱く燃えるボール二個利用のドッジボール。約一時間ほどで皆、頬を紅潮させ帰宅です。これは子供が仲間を作り楽しく集うイベントで、更に野外研修などで様々な事を体験し学ぶ力を養っていく場です。地域学校に支えられて…。

（なごやかな子供の活動）

ふれ合いバスの無料化を

老人クラブとの交流会

本年度事業計画のトップを切って八月二十三日横二公民館で次の内容を中心に、開催された。

一、老人クラブの社会奉仕の在り方。

二、老人クラブの社協に期待すること。

和やかな雰囲気の中にも緊張感が漲る実のある交流会であった。新たな課題として「ふれ合いバスの無料化促進」が注目された。

（老人クとの交流）

老人クラブへのお誘い

老人クラブ会員を募っています。

豊かなご経験、生活の知恵を社会に活かして下さい。趣味の交流、旅行の楽しみ軽い社会奉仕、など…六十歳以上のあなたをお待ちしています。

連絡先

横森老人ク　会長　田口長太郎　八三三―四四一八

横四　同　会長　塚原定四郎　八三三―三七六〇

桜寿クラブ　会長　鈴木　重幸　八三四―二六二三

ハイタウン桜が丘　会長　佐藤　良三　八三一―五五三二